

平成25年度第2回さぬき市病院事業運営審議会資料(平成25年10月1日開催)

さぬき市民病院改革プランの取組状況 (平成24年度決算見込み)

さぬき市病院事業

1 数値目標に対する実績数値

(1) 財務に係る数値目標

(単位：%)

項目	年度	平成 24 年度			平成 25 年度
	平成 23 年度	計画	決算見込み	比較	計画
経常収支比率	96.2	95.8	96.4	0.6	97.6
職員給与費比率	66.4	63.6	62.2	▲1.4	62.3
一般病床利用率	71.6 (195～175 床)	86.5	74.9 (175 床)	▲11.6	82.6 (175 床)

○ 経常収支比率とは、経常収益に対する経常費用の割合（経常収益÷経常費用）である。

平成 24 年度の計画（以下「計画」という。）では、95.8%の経常赤字を想定していたが、決算見込みでは、それを 0.6 ポイント上回る 96.4%となった。収支のそれぞれを分析してみると、比率算定の分子となる経常収益は、計画に対し 94.4%の達成率となったが、その主なものとなる料金収入（入院・外来収益）は、計画には届かなかったものの D P C 制度導入や新病院効果により過去 5 年間では最高額（下表「料金収入の推移」参照）となった。その一方で、分母となる経常費用は、職員数が計画時の採用予定数を下回ったことによる給与費の減少や料金収入に比例して増減する材料費の減少等から計画に対し 93.8%となった。

このように計画に対して収支双方の予定量は縮小したが、料金収入の増収により経常収支比率は計画を上回った。

料金収入の推移

(単位：百万円)

年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
料金収入額	2,845	2,939	2,961	2,986	3,178
前年度との差	—	94	22	25	192

○ 職員給与費比率とは、医業収益に占める給与費の割合（給与費÷医業収益）である。

計画では、63.6%を目標としていたが、決算見込みにおいては、これを達成する 62.2%という結果が得られた。その理由

は、計画策定時に看護師を23名新規に採用する予定だったのに対し、結果的に12名の採用に留まり、比率算定の分子となる給与費自体が減少したためである。この看護師増員は、看護体制を見直す(10:1⇒7:1看護体制)ことで、診療報酬の増収を図るとともに患者サービスの向上を目的とするものであった。

ところが、結果的に平成24年度の入院患者数の減少は、現状の看護人員でも看護体制を見直しできることとなったため、平成25年5月から7:1看護体制で運営している。

なお、入院患者数の増加や稼働病床数の拡大には、引き続き、看護師の確保が必要なことから、募集回数を増やすなどして積極的な募集活動に努めている。

○ 一般病床利用率とは、延許可病床数に対する延入院患者数の割合である。

計画では、新病院の開院効果等を見越し86.5%を目標としていたが、DPC制度導入による在院日数の短縮が影響し、計画に対しては、11.6ポイント下回ったものの、平成23年度の実績と比較すると3.3ポイント上回る74.9%となった。

在院日数とは、一人の患者が何日間入院をしているかを示す指標であるが、平成23年度が16.2日だったのに対し、平成24年度では13.7日と2.5日間減少した。

なお、これを踏まえ、亜急性期病床を有効利用することで在院日数の確保に努めるとともに、高齢者等には、入院中に回復リハビリテーションなどを実施し、退院後の自立支援にも積極的に取り組んでいる。

(2) 公立病院としての医療機能に係る数値目標

(単位：人、%、件)

項目	年度	平成24年度			平成25年度
	平成23年度	計画	決算見込み	比較	計画
年間入院患者数	50,219	55,261	47,852	▲7,409	52,743
年間外来患者数	125,181	132,294	127,473	▲4,821	132,005
患者紹介率	23.2	23.5	28.3	4.8	24.0
患者逆紹介率	16.8	17.0	19.5	2.5	17.5
手術件数	868	880	957	77	900
臨床研修医受入人数	6	5	5	0	5

- 年間入院患者数については、計画では 55,261 人を目標としていたが、決算見込みでは、計画に対し 7,409 人減となる 47,852 人となった。その理由は、在院日数の短縮が影響しているが、新入院患者数は、平成 23 年度が 2,906 人だったのに対し、平成 24 年度は 344 人増加の 3,250 人となっており、新規の患者数は増加している。
- また、外来患者数については、平成 23 年度の実績と比較すると 2,292 人の増加となったものの、計画に対しては 4,821 人の減少となる 132,294 人となった。新病院の開院効果で前年度より患者数は増加したものの、計画に届かなかった理由としては、皮膚科外来の非常勤化により毎日診療が週 2 回に縮小したことや薬剤の長期処方への推進によるものと思われる。
- 患者紹介率とは、初診患者数のうち、開業医など他院から紹介されて来院した患者数と救急車にて来院した患者数を加算した割合を示すものである。

計画では、23.5%を目標としていたが、決算見込みでは、それを 4.8 ポイント上回る 28.3%となった。また、平成 23 年度の実績と比較しても 5.1 ポイント上回る結果となっており、地域医療連携活動の積極的な取組により、近隣病院と当院との信頼関係が深まったものと思われる。
- また、患者逆紹介率とは、初診患者数のうち、当院から他院へ患者を紹介した患者数の割合を示すものである。

計画では、17.0%を目標としていたが、決算見込みでは、これを 2.5 ポイント上回る 19.5%となった。平成 23 年度の実績と比較しても 2.7 ポイント上回る結果となっており、地域医療連携活動の効果により他院へのスムーズな患者紹介が行えているものと思われる。
- 手術件数については、手術室を 3 室から 4 室に増室し、そのうちの 1 室を無菌手術室（バイオクリーンルーム）にするなど新病院の開院効果により、計画では 880 件を目標としていたが、決算見込みでは、これを 77 件上回る 957 件となった。また、平成 23 年度と比較しても 89 件の増加となった。
- 臨床研修医受入人数は、計画どおり 5 名を受け入れた。

(3) 収支計画（収益的収支）

（単位：百万円）

区 分		年 度	平成 24 年度			平成 25 年度
		平成 23 年度	計画	決算見込み	比較	計画
		決算				
収 入	1 医業収益	3,240	3,797	3,555	▲242	3,947
	(1) 料金収入	2,963	3,426	3,178	▲248	3,570
	(2) その他	277	371	377	6	377
	2 医業外収益	424	308	320	12	332
	(1) 他会計負担金・補助金	342	260	260	0	286
	(2) 国(県)補助金	24	1	2	1	2
	(3) その他	58	47	58	11	44
	経常収益	3,664	4,105	3,875	▲230	4,278
支 出	1 医業費用	3,502	4,194	3,883	▲311	4,296
	(1) 給与費	2,151	2,413	2,211	▲202	2,457
	(2) 材料費	610	688	623	▲65	687
	(3) 経費	650	668	603	▲65	719
	(4) 減価償却費	78	405	432	27	415
	(5) その他	13	20	14	▲6	18
	2 医業外費用	307	93	139	46	88
	(1) 支払利息	33	57	47	▲10	52
	(2) その他	274	36	92	56	36
	経常費用	3,809	4,287	4,022	▲265	4,384
経常損益		▲145	▲182	▲147	35	▲106

(単位：百万円)

区 分		年 度		平成 24 年度			平成 25 年度
		平成 23 年度	決算	計画	決算見込み	比較	計画
特別損益	1 特別利益	0	0	0	0	0	0
	2 特別損失	104	535	577	42	0	0
	特別損益	▲104	▲535	▲577	▲42	0	0
純損益		▲249	▲717	▲724	▲7	▲106	▲106
累積欠損金		▲1,291	▲2,007	▲2,015	▲8	▲2,113	▲2,113
不良債務	流動資産	1,420	1,440	1,633	193	1,460	1,460
	流動負債	242	247	230	▲17	252	252
	不良債務	0	0	0	0	0	0

○ 経常収益の決算見込みについては、計画には届かなかったものの、過去5年間では最高となる3,875百万円（対前年度211百万円の増額）となり、これは、料金収入（入院収益や外来収益）が大幅に増収したことが要因となっている。

また、この料金収入の増額は、患者1人当たりの診療単価の増額によるものであり、入院診療単価は対前年度比13.5%の増（34,914円⇒39,611円）、外来診療単価は対前年度比4.1%の増（9,667円⇒10,063円）となっており、高度医療の提供や診療報酬算定方法の見直し（DPC制度導入など）が主な要因となっている。

○ 一方、経常費用の決算見込みについては、計画より265百万円減額の4,022百万円となった。減額となった理由としては、職員数が計画時の定員数に満たなかったことによる給与費の減少、収益が計画の額を下回ったことに比例して減少した薬品など材料費の減少、また、経費のうち光熱水費において、新病院から新しくオール電化としたが、電気料金が予定量を下回ったために不用額が生じたことや病棟クレーンや医師補助業務委託等における契約内容の見直しに伴う委託料の減少などが主なものである。経常経費のうち増額分については、医業外費用が、病院増改築工事の延伸により、資本的支出で生じる消費税の振替分が増額となったことや、減価償却費が、旧病院の解体・撤去工事の延伸により、これに係る当年度分の償却費が発生したためである。

- 以上のことから、経常損益は、計画では182百万円の損失を見込んでいたが、147百万円の経常損失に留まり、計画を上回る結果となったが、その理由は、料金収入の増額によるものである。なお、損失が生じた大きな理由は、新病院の開院に伴って整備した建物、附帯設備、医療器械等の償却資産の減価償却が平成24年度から始まったためである。
- また、純損益については、経常損失に加えて、旧病院の撤去等による除却費用を特別損失として577百万円計上したため、724百万円の純損失となり、その結果、累積欠損金は2,015百万円となった。
- なお、流動資産は、現金預金の増加により計画より193百万円の増加となっており、平成23年度の実績と比較しても213百万円の増加であり、不良債務は発生していない。

(4) 収支計画（資本的収支）

(単位：百万円)

年度 区分		平成23年度	平成24年度			平成25年度
		決算	計画	決算見込み	比較	計画
収 入	企業債	2,307	41	277	236	79
	他会計出資金	861	103	180	77	135
	国（県）補助金	1,402	4	2	▲2	0
	収 入 計	4,570	148	459	311	214
支 出	建設改良費	4,087	91	406	315	82
	投資	0	0	0	0	0
	企業債償還金	70	121	113	▲8	285
	その他	0	1	0	▲1	1
	支 出 計	4,157	213	519	306	368
差引不足額		▲413	65	60	▲5	154

(単位：百万円)

年度 区分		平成 23 年度	平成 24 年度			平成 25 年度
		決算	計画	決算見込み	比較	計画
補てん 財 源	損益勘定留保資金 (注)	—	65	60	▲5	154
補てん財源不足額		—	0	0	0	0

注) 損益勘定留保資金：収益的収支における現金の支出を必要としない費用、具体的には減価償却費、資産減耗費などの計上により企業内部に留保される資金をいう。

- 資本的収支の決算見込みについては、新病院の建設工事が延伸したため、資本的収入は、一部の企業債と他会計出資金の受入時期を平成 23 年度から平成 24 年度に繰り越したことなどにより、計画に対し 311 百万円増額の 459 百万円となり、一方で、資本的支出の決算見込みも、建設工事の延伸により、建設改良費が増額となり、計画に対し 306 百万円増額の 519 百万円となった。
- なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 60 百万円については、損益勘定留保資金をもって補てんした。